

問 題 訂 正

学校推薦型選抜 ソーシャル・データサイエンス学部

教科目名 (小論文)

問題冊子表紙 注意事項 2.

(誤) 「問題は 1 冊 (本文 2 ページ), 解答用紙, 下書用紙はともに 1 枚である。」

(正) 「問題は 1 冊 (本文 2 ページ), 解答用紙, 下書用紙はともに 2 枚である。」

補 足 説 明

学校推薦型選抜 ソーシャル・データサイエンス学部

教科目名 (小論文)

問題冊子表紙 注意事項 4.

「(~省略) 問題番号も字数制限の中に含む。ただし、
例えば「問 1」ならば「1」とのみ書いても構わない。」
とあるが、問題番号は書かなくて良い。

推 問**学校推薦型選抜（ソーシャル・データサイエンス学部）****令和7年度****注 意 事 項**

1. 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 問題は1冊（本文2ページ）、解答用紙、下書用紙はともに1枚である。
3. 全部の解答用紙に受験番号を書くこと。受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 80001 番の場合 →

8	0	0	0	1
---	---	---	---	---

4. 解答は解答用紙の所定の位置に横書きで書くこと。他の所に書くと無効になることがある。
また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書くこと。なお、字数制限がある場合、算用数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができる。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。問題番号も字数制限の中を含む。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構わない。

(例) 「問1」の場合 →

5					
1

5. 書き損じても、代わりの用紙は交付しない。
6. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ること。

令和7年度 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部
学校推薦型選抜試験問題

Hoff and Pandey (2006, A.E.R, Papers and Proceedings) は、カースト制度の差別について考察するために、以下のような実験を行った。

被験者：学歴6年目と7年目（日本の小学校6年生と中学校1年生に対応）の男性の学生（身分の最も高いカーストに属する学生と最も低いカーストに属する学生のみ）。被験者はランダム（無作為）に以下の3つの実験に割り当てられ、それぞれの実験では被験者は6人のグループに分けられ、一人ひとりが15の課題を解くように指示された。

実験1：グループの構成員は両カースト出身者を含むが、構成員のカーストは知らされていない。

実験2：グループの構成員は両カースト出身者を含むが、グループの構成員の一人ひとりのカーストが知らされている。

実験3：グループの構成員は全員同じカーストに属する。グループの構成員のカーストが知らされる。

FIGURE 1 が実験の結果を示している。X軸は実験1 (Anonymous), 実験2 (Caste Revealed), 実験3 (Caste revealed-single case)を示し、Y軸はそれぞれの実験におけるカーストごと (high caste, low caste)の学生一人あたりの正解であった問題の数を示している。

この実験の結果から、カーストによる差別に関して何を学ぶことができるか、説明しなさい。

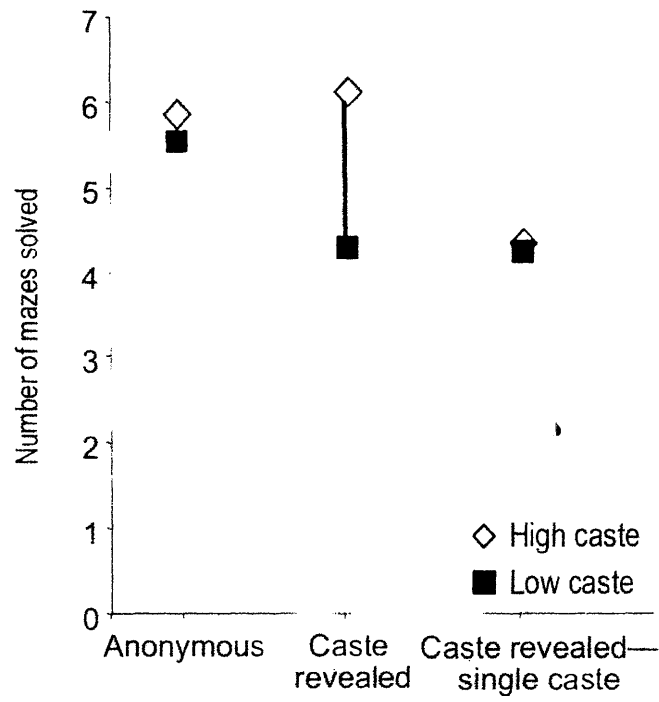


FIGURE 1. AVERAGE NUMBER OF MAZES SOLVED, ROUND 2